

人体の噴火口より汗の玉

井口夏子

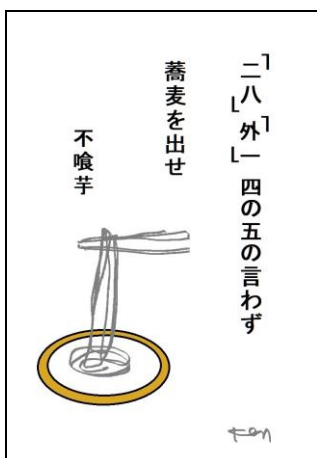
「人体の噴火口より」と何のことかと思わせる奇抜な表現で読者をひきつけ、下五で「汗の玉」と謎解きをしているのが巧い。「噴火口」が決め手。



くたくたの背なに暑さが重すぎる

上山美穂

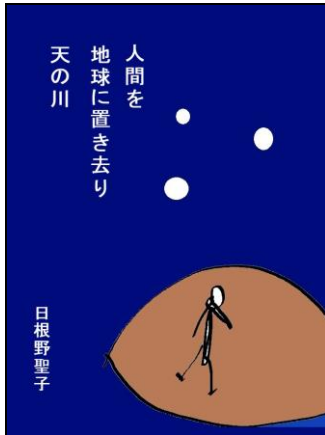
暑さは気温であって、重さで測るものではない。そんな当たり前の固定概念を覆して見事である。作者の感じた暑さと疲労の実感がよく出ている。



「二八」^{にはち}「外一」^{そといち}四の五の言わず蕎麦を出せ

不喰芋

蕎麦の麺の配合で、「二八」「内二」は小麦が二で蕎麦が八。「外一」とは、小麦が一で蕎麦を十とするものである。数字を上手く使って滑稽句に。



人間を地球に置き去り天の川

日根野聖子

天文学の知識が句になった。宇宙は膨張しており、銀河は我々から遠ざかる運動をしている。つまりは、地球人は置き去りにされているらしい。



にわか雨破れ傘でも借りようか

ほりもとちか

なんだ、この句は季語がないじゃないか。いえいえ「破れ傘」が季語です。植物の一種で、葉が半開きの破れた傘のように見える愉快的な山草である。



ごほうびは好きなアイスよペダル漕ぐ

渡部美香

作者は自転車で坂道を登っているらしい。ここを乗り切れば、家でアイスのご褒美が待っている。もうひと頑張りと脚に力が入る。童心がいいね。